

全国月間火山概況（平成 24 年 4 月）

霧島山（新燃岳）では、今期間、噴火は発生しませんでした。新燃岳の北西数 km の地下深くのマグマだまりへの深部からのマグマの供給を示す地殻変動は 2012 年 1 月以降ほぼ停滞しています。しかし、現在でも火口やその直下には高温の溶岩が溜まっており、新燃岳直下の火山性地震も続いていることから、突発的な噴火が発生する可能性があります。また、今後、深部からのマグマ供給が再開する可能性もあり、新燃岳へ多量のマグマが上昇すれば新たな噴火の可能性もあります。新燃岳火口から概ね 3 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しています。

桜島では、昭和火口で爆発的噴火を含む活発な噴火活動が継続しました。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しています。

三宅島では、多量の火山ガスの放出が続いています。火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）が継続しています。

硫黄島では、5 日から 6 日にかけて、島西部の旧噴火口（通称：ミリオンダラーホール）でごく小規模な水蒸気爆発が発生したと推定されます。また、27 日から 28 日にかけて、通常より大きな隆起が観測され、微小地震が 27 日から、火山性微動が 29 日から活発な発生状態になるなど火山活動が活発化しました。29 日から 30 日にかけて島の北東沖で変色水域が確認され、同海域で海底噴火が発生した可能性があると考えられます。その後、地殻変動観測では沈降が観測され、微小地震の発生状態も活発化前に戻り、火山性微動の発生も概ね低調になっています。しかしながら、硫黄島の火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、今回、噴火が発生した可能性のある領域やこれまで小規模な噴火が発生した領域付近では噴火に対する警戒が必要です。27 日以降の火山活動に伴い、29 日に火山現象に関する海上警報を発表しました。また、火口周辺警報（火口周辺危険）が継続しています。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

5 月 9 日現在の各火山の噴火警戒及び噴火予報等の発表状況は表 1 のとおりです。

表 1 5 月 9 日現在の噴火警戒及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	霧島山（新燃岳）、桜島
	レベル 2（火口周辺規制）	三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
火口周辺警報及び火山現象に関する海上警報	火口周辺危険 及び周辺海域警戒	硫黄島
噴火警戒及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福德岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、新潟焼山、焼岳、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、口永良部島、
	平常	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、アトサヌプリ、雄阿寒岳、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、島海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカンダナ山、乗鞍岳、白山、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、婿婦岩、西之島、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山



図1 噴火警報及び火山現象に関する海上警報発表中の火山

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

三宅島 【火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】

山頂火口からの噴煙高度は、火口縁上 100～300mで経過しました。

9日及び19日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は、一日あたりそれぞれ700トン、500トン(前月3月15日及び22日、それぞれ900トン、600トン)で、やや多量の火山ガス放出が続いています。三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

全磁力連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化は見られませんでした。

火山性地震は少ない状態が続いています。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした。火山性微動は観測されませんでした。

GPS連続観測によると、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら現在も継続しています。島の南北を挟む基線では、2006年頃から深部の膨張を示す伸びの傾向がみられています。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺(雄山環状線内側)では噴火に対する警戒が必要です。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要です。

硫黄島 【火口周辺警報(火口周辺危険) 及び火山現象に関する海上警報】

5日から6日にかけて、島西部の旧噴火口(通称: ミリオンダラーホール)でごく小規模な水蒸気爆発が発生したと推定されます。また、29日から30日にかけて、島の北東沖で海底噴火が発生した可能性があります。

5日昼過ぎに火山性微動が、同日夕方から6日昼前にかけて、噴火に伴うと推定される断続的な震動

と空振が観測されました。5日午後から6日午後にかけて、島西部の旧噴火口（通称：ミリオンダラーホール）から間欠的な音の発生とガスの噴出も確認されており、5日から6日にかけて、ごく小規模な水蒸気爆発が発生したと推定されます。

また、27日から28日にかけて、国土地理院の地殻変動観測で通常より大きな隆起が観測され、地震活動も27日から活発な状態となりました。その後、地殻変動は隆起から沈降に転じ、地震活動もやや低下傾向となりましたが、28日と30日に一時的な微小地震の活発化がみられ、29日以降は火山性微動（調和型震動）が断続的に観測されるなど、火山活動は活発な状態が続きました。そのような中で29日から30日にかけて島の北東沖で変色水域が確認され、同海域で海底噴火が発生した可能性があると考えられます。30日には、島北部で高さ10m程度の噴気も新たに確認されました。

なお、5月4日（期間外）以降は、微小地震、火山性微動（調和型震動）の発生は共に低調になってきています。

以上のように、硫黄島の火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、今回、変色水が確認された島の北東沖や新たに噴気を確認された島北部、並びにこれまで小規模な噴火が発生した島東部の海岸付近、島西部及び南東沖（翁浜沖）では噴火に対する警戒が必要です。

平成19年12月1日に火口周辺警報（火口周辺危険）を発表しました。また、4月27日以降の火山活動に伴い、2012年4月29日に火山現象に関する海上警報（周辺海域警戒）を発表しました。

福徳岡ノ場【噴火警報(周辺海域警戒)及び火山現象に関する海上警報】

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されています。今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要です。

霧島山（新燃岳）【火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)】

新燃岳では、今期間、噴火は発生しませんでした（最後の爆発的噴火は2011年3月1日、噴火は2011年9月7日）。噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上概ね50m（最高高度は200m）の高さで経過しました。

火山性地震はやや多い状態が続いています。月回数は356回（3月：368回）でした。震源はこれまでと同様に、新燃岳付近の海拔下0～2km付近に分布しました。火山性微動は今期間観測されませんでした（3月：なし）。

国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は、2011年12月頃から鈍化し、その後停滞しています。新燃岳周辺のGPS連続観測及び傾斜計では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

6日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり100トン（3月：100トン）と少ない状態でした。

新燃岳火口から概ね3kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。これまでの噴火では、風に流されて直径4cm程度の小さな噴石（火山れき）が新燃岳火口から10kmを超えて降りました。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。噴火警報等及び霧島山上空の風情報に注意してください。降雨時には泥石流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に注意してください。

桜島【火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)】

昭和火口では、活発な噴火活動が継続しました。噴火の回数は127回（3月：128回）でそのうち爆発的噴火の回数は107回（3月：112回）でした。大きな噴石が3合目（昭和火口から1,300m～1,800m）まで達した爆発的噴火は、4回発生しました。噴煙の最高高度は火口縁上2,800mでした。火砕流は確認されませんでした。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測しました。

南岳山頂火口では、時々ごく小規模な噴火が発生しました。噴煙の最高高度は、火口縁上400mでした。

火山性地震は、少ない状態で経過しました。月回数は621回（3月：892回）でした。震源は、主に南岳から北岳付近の海拔下約1～3kmに分布しました。噴火に伴う火山性微動が発生しており、月回数は294回（3月：480回）で、継続時間の月合計は81時間35分で先月（3月：92時間46分）と同程度でした。

2、17、23日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり1,800～2,700トン(3月:2,400トン)と引き続き多い状態でした。

有村観測坑道の水管傾斜計(大隅河川国道事務所設置)では、2011年11月頃から山体がわずかに隆起する傾向が続いていましたが、2012年2月以降、停滞しています。GPS連続観測では、2011年9月頃からわずかな伸びの傾向が続いています。また、国土地理院の地殻変動観測結果によると、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられます。

鹿児島地方気象台での観測では、月合計19g/m²(降灰日数8日)の降灰を観測しました。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の3月の総噴出量は81万トンで、2月(52万トン)よりやや増加しました。

5日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査で、昭和火口の火口底に新たに上昇してきたとみられる溶岩(直径50～60m)が確認され、溶岩の中央部には赤熱した領域が認められました。赤外熱映像装置による観測でも、今回確認した溶岩に対応した部分に高温の領域が認められました。昭和火口の火口底では、2011年5月31日及び2011年7月11日にも溶岩が確認されました。昭和火口では夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映が発生していることから、溶岩が火口底付近まで繰り返し上昇していると考えられます。また、前回火口底が確認できた7月11日と比べ火口底がやや浅くなっていました。今回、溶岩が確認され、火口底もやや浅くなってはいるものの、確認された溶岩は少量で、地殻変動等のデータからみて、大量のマグマが桜島直下に移動している可能性は低く、ただちに火口外に溶岩を流出することはないと考えられます。溶岩に対応する領域を除き、火口内の温度の分布等には特段の変化は認められませんでした。南岳山頂火口の火口内は噴煙の影響で確認できませんでしたが、赤外熱映像装置による観測では2012年2月に認められたような顕著な高温の領域は見られませんでした。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石(火山れき)に注意が必要です。降雨時には土石流に注意が必要です。

薩摩硫黄島【火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過しました。白色の噴煙が、最高で火口縁上300mまで上がりました。

火山性地震の月回数は126回(3月:201回)と少ない状態で経過しました。振幅が小さく継続時間の短い火山性微動を1回(3月:1回)観測しました。

GPS連続観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められませんでした。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石に注意が必要です。

諏訪之瀬島【火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】

御岳火口では、爆発的噴火を含む噴火は発生しませんでした(3月:1回)、長期にわたり噴火を繰り返しています。噴煙の最高高度は火口縁上300m(3月:200m)でした。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測しました。

火山性地震は少ない状態で経過しました。月回数はA型地震が21回(3月:26回)でした。B型地震は85回(3月:20回)でやや増加しました。5日に火山性連続微動が発生し、火山性微動の継続時間の月合計が9時間26分(3月:17分)と増加しました。

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石に注意が必要です。

(火山の順は活火山総覧(第3版)による)

資料1 全国の火山の噴火警報及び噴火予報の発表状況のまとめ（平成24年5月9日現在）

(1) 主な活火山

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	雌阿寒岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年9月29日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年10月17日 噴火予報（平常） 2008年11月17日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年12月16日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年4月10日 噴火予報（レベル1、平常）
	大雪山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	十勝岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年12月16日 噴火予報（レベル1、平常）
	樽前山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	倶多楽	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	有珠山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年6月9日 噴火予報（レベル1、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	恵山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
東北地方	岩木山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	秋田焼山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	岩手山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2009年10月27日 噴火予報（レベル1、平常）
	鳥海山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	栗駒山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	蔵王山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	吾妻山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	安達太良山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2009年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）
磐梯山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2009年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）	
関東・中部地方	那須岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2009年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）
	日光白根山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	草津白根山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） 2009年4月10日 噴火予報（レベル1、平常）切替
	浅間山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） 2008年8月8日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年2月1日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年2月3日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2009年4月7日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2010年4月15日 噴火予報（レベル1、平常）
	新潟焼山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2011年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）
	焼岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2011年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）
	乗鞍岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	御嶽山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）
	白山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	富士山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
箱根山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2009年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）	
伊豆東部火山群	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2011年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）	

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	新島	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	神津島	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	三宅島	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年3月31日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	八丈島	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	青ヶ島	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月1日 火口周辺警報（火口周辺危険）
	福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域警戒）	2007年12月1日 噴火警報（周辺海域警戒）
九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	九重山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	阿蘇山	噴火予報 （レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） 2011年5月16日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2011年6月20日 噴火予報（レベル1、平常）
	雲仙岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	霧島山（新燃岳）	火口周辺警報 （レベル3、入山規制）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） 2008年8月22日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年10月29日 噴火予報（レベル1、平常） 2010年3月30日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2010年4月16日 噴火予報（レベル1、平常） 2010年5月6日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2011年1月26日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2011年1月31日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2011年2月1日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2011年3月22日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	桜島	火口周辺警報 （レベル3、入山規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年2月3日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年2月20日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年4月8日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年7月14日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年7月28日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年8月28日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年2月2日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年2月19日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年3月2日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年3月10日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2009年4月24日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年7月19日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2010年9月30日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2010年10月13日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2012年3月12日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替 2012年3月21日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）切替
	薩摩硫黄島	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	口永良部島	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年1月25日 噴火予報（レベル1、平常） 2008年9月4日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年10月27日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2009年3月18日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年8月4日 噴火予報（レベル1、平常） 2009年9月27日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2009年10月30日 噴火予報（レベル1、平常） 2011年12月15日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2012年1月20日 噴火予報（レベル1、平常）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）

注）噴火警報及び噴火予報の発表履歴欄には、平成19年12月1日の噴火警報及び噴火予報の発表と噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示す。この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示している。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルである。

(2) その他の活火山

以下の活火山では平成 19 年(2007 年)12 月 1 日に噴火予報(平常)を発表し、その後、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山*、摩周、雄阿寒岳*、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方	高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカシダナ山
伊豆・小笠原諸島	利島、御蔵島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、西之島、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山

* 天頂山と雄阿寒岳は、平成 23 年 6 月 7 日に活火山として選定され、噴火予報(平常)を発表した。